



Contents

- ・【巻頭エッセー】図書館に架ける橋… 蔭山真美子 ●表紙
- ・【Parlando Interview】国音は結（ゆい）の世界
久元祐子先生 きき手・關音々子 ●2～5
- ・風景の中で②… 図書館長 井上郷子 /
資料の部屋②… 宇田川もも ●6
- ・【私のおすすめ】… 坂本光太 花岡美伶 ●7
- ・Information ●8

Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.304

【巻頭エッセー】 図書館に架ける橋

蔭山 真美子

「明日に架ける橋」※という曲を、ご存知の方も多いのではないかと思います。～Like a bridge over troubled water, I will lay me down.～この歌詞に重ねるのはいささか強引かもしれませんが、この『ぱるらんど』が私たちと図書館をつなぐ架け橋として、図書館をより身近な存在にしてくれていることは疑いのないことでしょう。かくいう私も『ぱるらんど』の大ファンで毎号欠かさず拝読しています。 なによりタイトルが大好きです。“ぱるらんど”、ゆっくり語りかけるように歌う……。時間に追われ、気持ちに余裕がなくなってしまう自分に気がついた時、「ぱるらんど！」と唱えると、あらふしぎ！気持ちがふっと落ちつきます。

私は音楽療法を専門としていますが、臨床現場で対象児・者と関わる際にも、無意識のうちに“ぱるらんど”で向き合い、話しかけ、演奏していることに気がきます。とりわけ高齢の方を対象に用いる曲や歌は、個々の良い思い出や記憶に繋がりがやすいように、その方が過ごされた当時の楽譜や伴奏をできるだけ用いるようにしています。そのために、いくつかの楽譜を比較検討しながら、その方の記憶にある（であろう）ものを探さなければなりません。そんな時ほど、本学の図書館を頼もしく思うことはありません。

振り返れば私が本学に赴任して一年後、当時図書館長でいらした佐藤真一先生より図書館委員を仰せつかり、「図書館」という言葉に惹かれて即答でお引き受けしたことを思い出します。その後館長を引き継がれた古川聡先生にも

大変お世話になり、図書館のイベント企画にも関わらせていただきました。『ぱるらんど』に何回か記事を載せていただいたことも、大切な思い出のひとつです。現館長の井上郷子先生とは同年に本学に就任して以来のご縁ですが、M.フェルドマンやL.フェラーリといった現代音楽の作曲家による、数々の作品に触れる貴重なきっかけを頂きました。

2年前にリニューアルされ、より使いやすくお洒落になった本学の図書館、学生たちにも好評です。聞くと、月刊雑誌も含めて種類が多くありがたい反面、目当ての本に限ってなかなか返却されず、しばし待つこともあると言います。返却期限についてはお互い気を付けたいものですね。私は、入り口の赤ランプが付くことも多く毎回ドキドキします。そんな時にも職員さんの優しく丁寧な対応にとっても助けられています。

最後になりましたが、今後の図書館の益々の発展と、図書館に架ける橋『ぱるらんど』の益々の充実をお祈りしつつ、このあたりで筆を置きたいと思います。

※「明日に架ける橋」原題は“Bridge Over Troubled Water”
作詞・作曲P.Frederic Simon,
サイモン&ガーファンクルが1970年に発表し、全米1位となった楽曲。

●かげやま まみこ 本学教授（音楽療法）

Parlando Interview

きき手：關 音々子(大学院音楽研究科修士課程器楽専攻[ピアノ]1年)

久元 祐子 先生
(ひさもと・ゆうこ)

演奏家としてはもちろん、教育者、本の執筆など、幅広く活躍されている久元祐子先生。愛する音楽を通じた出会いに感謝し、大切にしている。穏やかな口調から情熱的な思いが溢れます。

ゆい
国音は結の世界

ピアノとの出会い

— ピアノを始めたきっかけを教えてください。

久元 母がとてもピアノが好きで、私が3歳ぐらいの時に買ってくれました。団地上階の窓から見て「あ、ピアノが来る！」という嬉しかった記憶は、今も鮮明に残っています。



写真提供：久元先生

— では、お母様のお考えとか音楽環境、生活環境が元々整っていたのですね。

久元 両親は音楽が好きでしたが、音楽家ではありません。親戚にも音楽家はいなくて、音楽を志すには、甚だ心細い環境と言えましょう。

小学校のときには、ピアノ以外のことにたくさん興味がありました。陸上部に所属しており、短距離の選手として神奈川県大会のリレーで2位になり、将来は国体に出たいと夢んだり、アナウンサーに憧れてみたり。本が大好きだったので夜更けまで読み耽り、主人公になりきっているような子供でした。

ピアノのほうは、当時、近所にとっても良い先生がいらして3歳からピアノのレッスンを始めていたのですが、本格的に音楽の道に進もうと決めたのは、中学2年生のときでした。先生が「この子は音楽に

進んだほうがいい」と強く勧めてくださったのです。でも両親が「私たちの子供なのだから才能があるはずがない、どうやってやめさせようか」と話しているのを隣の部屋で泣きながら聞いていた記憶があります。両親はずっと“いかに諦めさせるか”と思索していました。自分たちは音楽家ではないし、どうも大変そうだし、よく分からない世界に子供が入るというのも困ると思ったのでしょうか。また、私には弟がいたので姉弟平等に教育を受けさせたいという思いがあったように思います。けっきょく両親の反対を押し切ってわが道に進むことになったわけです。

鍵盤楽器奏者として

— ピリオド楽器の奏者としても活躍されていますが、さまざまな楽器を弾きこなすには？

久元 なるだけ多くの鍵盤楽器に触れること。楽器が教えてくれることはとても大きい。

今年の春には国立音大楽器学資料館でショパンの時代の楽器を6台使ったシンポジウムで演奏させていただきました。その直後に現代のピアノを弾くと、これはオカルトみたいな世界なのだけれど、何かが肉体を通して現代のピアノに乗り移るような…。

たとえばモーツァルト時代の6ミリの深さの鍵を弾く。今は10ミリでしょ。そうすると、その6ミリの感覚を指が覚えているから、現代のピアノを弾いたときにも下まで押し込まず、ハーフタッチがいつの間にか自然に出来ていたり。

18世紀後半から19世紀初頭にかけてのピアノは現代のピアノとは全く違っていました。しかも短い期間に大きく変わっていったので

す。一台一台の楽器が手作りで、個体差も大きかった。そういう鍵盤楽器の変遷の時代を体験することによって、それぞれのピアノの個性に面食らうことが少なくなる。アクション、ハンマーの大きさ、タッチの深さなど「ピアノ」という一つの単語でくれないほど違うので。

モーツァルトも、オルガンを弾いて、クラヴィコードを弾いて、チェンバロを弾いて、フォルテピアノを弾いて・・・という楽器の変遷の時期に活躍したから、おそらく鍵盤楽器へのフレキシブルな対応力は並外れたものだったでしょう。

モーツァルトとの出会い



—— 久元先生といえば一番にモーツァルトが浮かぶのですが、モーツァルトとの最初の出会いは何でしたか？

久元 父親がモーツァルトがすごく好きで、イングリット・ヘブラーなどのLPをかけていました。それを聴いて、なんて透明な世界なんだろうと感動しました。

その後モーツァルトを弾くようになって譜面を見てみると、大胆にぶつけている意外な不協和音もあって、あらためて驚きました。にもかかわらず、なぜこんなに透明感のある音楽になるのかと、すごく不思議に思ったのです。一個音を変えただけで、闇の世界から光になったり、絶望から希望が変わったり。

でも演奏するとなると、モーツァルトはアラが目立つし、スピピンで美人コンテストに出るようなもの。卒業試験でモーツァルトを選ぶ人がほとんどいないでしょ。お化粧していいですよと言われてたら、やっぱりお化粧して出たほうが有利だし。私自身も学生の時には試験でモーツァルトなんて弾けなかったし、先生からも「モーツァルトを出すのは10年早い」と言われました。

弾き始めたのは、卒業後、演奏活動の中でリクエストが最も多かったからです。モーツァルトの愛好家は日本全国にたくさんいらして「モーツァルトを1曲入れてください」と言われる。スピピンで出るのは嫌だなと思いながら始めたモーツァルトでしたが、モーツァルトを弾いているうちに、少ない音符でこれだけ多くの感情を表せる作曲家ってすごい！と魅了され、引き込まれていったのです。

今、「モーツァルトと同時代人たち」をライフワークにしています。モーツァルトが生きた時代には、星の数ほどの音楽家が活躍していたのに、なぜ今モーツァルトが特別に輝いた存在として後世に残る力を持っているのだろう。その比類のなさはどこから来ているのか探りたいと思って、気がついたらここまでできました。でもやればやるほど解らないことが出てくるし、解ったかなと思うと指の間からスルスル抜けていく。まだまだこれからです。自分としてモーツァルトに少しでも近づきたいと思っています。

音楽の魅力とモチベーション



—— 学生時代にやっておいたほうがいいことはありますか？

久元 いろいろな音楽を徹底的に聴き、様々な音色を感じる耳をつくること。若いときの感動に震える経験は、人生の宝。音楽は気が遠くなるほどの昔から存在し、進化してきました。人間はたくさんの曲

を作り、その中から優れた作品を選んできたけれど、それらも国により、時代によりさまざま。16世紀ごろから20世紀にかけてのヨーロッパ音楽は、人類の遺産とされています。ドイツ、フランス、イタリア、ロシア、イギリスをはじめ、できるだけ多くの作品に触れることが大切。また自分の専攻している楽器だけでなくあらゆるジャンルの作品を聴く中で、音楽の魅力に触れていくこと。

そして音楽には音楽の理論がある。特に和声を学ぶことが、演奏する上で大きな力になると思います。

と同時に自分の音楽をできるだけたくさんの人に聴いてもらう機会を持つこと。これは待っているだけでなく自らチャンスを作っていく。うまくいくこともうまくいかないことも、あとで振り返ったときに貴重な財産に変わるでしょう。つまりインプットとアウトプットの両方が必要なのです。

そして演奏は、生身の肉体を通して表現する世界。緊張と弛緩を自らコントロールできる身体を作ることが大切だと思います。自らの体の声を聴き、心のまま自由に動ける体づくりが大事だと思うのです。

—— 日々、本番に追われているかと思うのですが、本番で緊張とかされることありますか？

久元 もちろんあります。ステージには魔物が住んでいるし。崖っぴちに一人で立つような恐ろしい思いを重ねています。同時にその恐ろしさを知ることは練習のモチベーションにつながる。普段できないことが本番でできるはずがないし、失敗には必ず理由がある。自分の肉体や精神をコントロールする力をつけるため、今も修行途上です。練習の積み重ねや緊張感の向こうに、奏でる悦びが待っている、と信じています。

—— 久元先生にとっての音楽の魅力、楽しさ、ここまで続けられてきたモチベーションというのは、そういったところにもおありですか？

久元 ええ。時代を超えて、国境を越えて残ってきた曲には、その音楽に力があるから、何回弾いても飽きない。例えばベートーヴェンのピアノ・ソナタ《ワルトシュタイン》は、私、大学の受験で弾き、その後も演奏会で弾いたりCDの録音もし、何回も弾いています。それでも毎回、弾くたびに何か新しい発見がある。その深さとか人の心に届く力を持った音楽というのは、“やっていてよかったなあ”と思います。自分の成長の過程をその古典が鏡のように見せてくれますよね。

人が人を好きになったり、悲しかったり、嬉しかったり、、、という感情は、何年たってもそんなには変わっていないと思う。それを表



写真提供:国立音楽大学楽器学資料館

現する楽器が変わったり、国が変わったり、弾く場所が変わったりということがあっても、そのエッセンスの部分は変わらない。それを引き出していきたい。それはきっと、人の心に通じると思っています。

と同時に、現代まさに生まれたばかりの作品、私達と同時代を生きている作曲家の音楽を知ったり弾いたりすることも素晴らしいことだし、演奏家の使命。作曲家が楽譜にしたことを演奏家が音にする。楽譜に書かれた記号を読み解く楽しさが古典の喜びだし、そのヒントやメッセージをタイムリーに受けとりながら現在進行形で音を作っていけるのが、現代音楽演奏の喜び。

音楽を言葉に



—— 多くの本を執筆されていますが、音楽を文章にする難しさは？

久元 音楽は、心を伝えることができる。ときには言葉では表現できないような複雑な思いや、言葉にできること以上の感情を伝えることができる。私のような乏しい筆力だと、音楽を言葉にした段階で、微妙にずれたり、狭くなったり、思考と少し違うところに行ってしまったかなと思う時がしょっちゅうです。

けれど音楽を言葉にすることによってあいまいだったものが整理されたり、認識を新たにすることも。目に見えない感覚の部分が、執筆によって一つの形態として眼前に立ち現れると思っています。そういう面で、自らの学びのためにも書くことは細々と続けていけたら、と考えているところです。

—— たくさんの情報に囲まれている時代をどう思いますか。

久元 私が学生の頃は、情報をゲットするのがすごく大変な時代で、モーツァルトと同時代の作曲家でも、有名でない作曲家の資料はわざわざウィーンに行き調べました。でもウィーンの図書館もウィーンに住んでいないと借りることができないという決まりがあったりとか、コピーをしても「演奏しません」という紙にサインさせられたりとか、そういう時代でした。ウィーンで遊学している友人を捕まえて「一緒に行き」と頼んで、ビールおごって、それでようやく1枚譜面が手に入るとかね。でもその分、手に入れた楽譜に愛着が生まれます。今はクリック一つでネットから入手でき、情報量の多さはもう全然比較になりません。情報をゲットするまでが難しかった時代と、情報が有り過ぎて大変な時代と……。

たくさんある中でどれを取捨選択するかとか、正しい情報かどうかを見極める必要も出てくる。

それはピアノ教育の世界でも言えると思います。バイエルからチェルニー……という決まったコースしか知らなければ、迷いなくその道を邁進しますが、“最新のコースがあります”“アメリカの楽しいコースがあります”“ロシアのメソッドもあります”となると、そこから何を選び、どう取り入れていくのが重要になってきます。自分の理想というのを、迷った末に見つけなければならない。迷わず“これですよ”という時代ではないから、それだけしっかりした判断が求められます。この点については、様々な先生から意見を聞いて、最終的には自分で決断することが必要です。

—— 国音の魅力は？

久元 雰囲気が良い。学生同志が、兄弟姉妹という感じ。それは、「アンサンブルのくにたち」の中で生まれてきた素晴らしい伝統だと思います。この気持ちの温かさは、社会に出た時に、大きな力になることでしょう。

同調会のコンサートなどで、そういう「人間力」を持った卒業生の皆さんにたくさんお会いしてきました。皆を牽引し、その社会で活躍していらっしゃるんですね。そんな“結(ゆい)”の精神が国音の魅力だと思うのです。

それに加え、音楽大学としてアジア随一の図書館があり、スタッフのみなさんが手厚く資料探手をサポートしてくださる。楽器学資料館で歴史的楽器に触れることもできる。

ハード面においてもオペラスタジオ、オーケストラスタジオ、素晴らしいレッスン室など、音楽を極めたいという気持ちを生かせる優れた教育環境も特筆すべきでしょう。

—— 最後に国音の学生へのメッセージをお願い致します。

久元 体力も気力も充実している時期に、様々な経験を積んでほしい。汲みつくせないほどの知の宝庫である大学を最大限に利用していただきたい。

その中で多くの出会いにも恵まれるでしょう。人生を変えるような出会いは、その時は偶然と思っていても、あとで振り返ると、何か自分の力以上のもの、もしかしたらミューズの神様が決めてくれた必然と思えることも。一つの出会いが次の出会いを生み、多くの実りをもたらしてくれることでしょう。その瞬間、瞬間を大事にしてほしい。

私自身も卒業して最初の演奏会は、小さな社会教育会館で始め、お客様が5人、10人、20人という感じで大きくなっていきました。コネもない、お金もないという中で、ちょっとずつ輪を広げていった感じでした。これまで支えてくださった方や一緒にアンサンブルを組んだ楽友、皆に感謝しています。

国音で培った愛と音楽の力を糧に、一つしかない命、一度しかない人生を、豊かなものにしてほしいです。

—— ありがとうございました。(了)



プロフィール

久元 祐子(ひさもと・ゆうこ)

東京藝術大学(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。平成17年より講師、23年より准教授、29年より教授として国立音楽大学で教鞭をとる。現在ピアノ実技の他、演奏論、ピアノ教育論、作品研究、演奏解釈などの授業を担当。

ウィーン放送響、ラトビア国立響、読響、新日本フィル、日本フィル、神奈川フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ブロードウッド(1810年頃製)ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)エラール(1868年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組む。ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇后(現・上皇太后)両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。イタリア国際モーツァルト音楽祭にたびたび招かれリサイタルを開催。CD「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ「ベートーヴェン“テレーゼ”“ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

<http://www.yuko-hisamoto.jp/>

久元先生おすすめの資料

図書

星の王子さま 愛蔵版 サン=テグジュペリ作
請求番号●今月の葉 77 久元祐子 (L001498) [ほか]
大人になっても子供の心を忘れない。音楽を志す者にとって大切な1冊。

五輪書 宮本武蔵著

請求番号●J21-671
本番に向けての精神の鍛練に、多くの示唆に富んだ1冊。

君たちはどう生きるか 吉野源三郎著

請求番号●J52-882 [ほか]
人間にとって大切なものは何か、考えさせられました。

DVD

ショーシャンクの空に
請求番号●VX681
音楽の力、美しさ、神秘を感じさせてくれる名画。

CD

Last recital / Lipatti
請求番号●XD51402
演奏の持つギリギリの力を感じてほしい。

Pachmann in London 1925 & 1927

請求番号●XD56331
圧倒的な存在感。自由なファンタジーとともに奏でる悦びにあふれた演奏。

久元先生のCDと著書

<CD>

久元祐子 with 280VC ベーゼンドルファーで奏でるモーツァルト KV397,352,331,332,333 ALM Records ALCD - 9178
請求番号●XD74507

優雅なるモーツァルト Piano Sonata KV331, 333 ALM records ALCD - 9155
請求番号●XD71848

学習するモーツァルト Piano Sonata K282, 283,284 ALM records ALCD - 9109
請求番号●XD67043

ハイドンとモーツァルト Hob. XVI-23,46 KV279,280,281 ALM records ALCD - 9089
請求番号●XD63828

青春のモーツァルト Piano Sonata K311, 309,310 ALM records ALCD - 9075
請求番号●XD60019

Liszt Annees de Pelerinage "Italie" Bishop Records EXAC0002

ピアノ名曲による花束 Pro Arte Musicae PAMP - 1026
請求番号●XD56625

MOZART Piano Concerto KV37, 271 LA FORTE

Nostalgia ライヴノーツ WWCC7447
請求番号●XD51165

ベートーヴェン「テレーゼ」「ワルトシュタイン」 ALM records ALCD9021
請求番号●XD45405

Chopin Balcarolle, etc ALM records ALCD9016
請求番号●XD43358

<著書>

名器から生まれた名曲③リストとベーゼンドルファー・ピアノ 学研プラス 2016
請求番号●シラバス 久元祐子 11 (J130618)

名器から生まれた名曲②ショパンとプレイエル・ピアノ 学研プラス 2014
請求番号●シラバス 久元祐子 10 (J128075)

名器から生まれた名曲①モーツァルトとヴァルター・ピアノ 学研プラス 2013
請求番号●J125596 [ほか]

「原典版」で弾きたい! モーツァルトのピアノ・ソナタ アルテスパブリッシング 2013
請求番号●シラバス 久元祐子 8 (J125456)

作曲家別演奏法II モーツァルト ショパン 2008
請求番号●J115-256 [ほか]

モーツァルトのピアノ音楽研究 音楽之友社 2008
請求番号●J114-102 [ほか]

作曲家別演奏法: シューベルト・メンデルスゾーン・シューマン・ショパン 2005
請求番号●J105-564 [ほか]

モーツァルト 18世紀ミュージシャンの青春 知玄舎 2004
請求番号●J101-020 [ほか]

モーツァルトはどう弾いたか インターネットで曲が聴ける 丸善 2000
請求番号●C64-852

モーツァルトのクラヴィア音楽探訪一天才と同時代人たち 音楽之友社 1998
請求番号●C63-038

風景の中で ②



図書館長 井上 郷子

先回、このコラムのタイトル「風景の中で」に関連して、ジョン・ケージのピアノ曲《In a landscape》について書きました。この曲が書かれた1940年代、ケージは、集中して、打楽器アンサンブルとプリペアド・ピアノのための作品を書いています。

プリペアド・ピアノは、「普通の奏法(打鍵によって、ハンマーが弦を打つ)で弾くとき、新しい音色と音高が生み出されるように、臨時に物が(通常は弦の間に)付け加えられたグランド・ピアノ」*と定義されます。実際、ごく普通のグランド・ピアノを注意深くプリペアドすることにより、数えきれないくらい多くの繊細な音色が得ることができます。が、非伝統的な方法で扱うが故に、理解されないことが多い楽器であることも事実です。私は、楽器を傷めることがないように、演奏者がピアノという楽器を知り、丁寧に扱っていくにはどうしたらよいかという技術を得ていくことも大切だと考え、そのために学内外で様々な試みを行なっています。

さて、ケージが1940年に書いた最初のプリペアド・ピアノ作品は《バッカスの祭》で、この曲では、演奏する前に、記譜されている12個

の音に対応する弦に、隙間ふさぎの布(フェルトで代用)、小さいポルト、ナットが付いたねじを挟み込んで打楽器的な音色を作り、演奏します。ダンサー、シヴィラ・フォートの依頼を受け、彼女の踊りのための音楽として作曲されましたが、ケージが言うには「踊りのアフリカ的な雰囲気を実現するために、打楽器アンサンブルを用いて書きたかった。でも、会場が狭く、思っているように打楽器が設置できない。ただ1台のグランド・ピアノを使って書くことを考えた」そうです。

プリペアド・ピアノはもちろん、ケージの創作の必然性から生まれたものですが、その発想は、師であったヘンリー・カウエルの影響を受けています。指や手で直接弦に触れ、それをはじいたりミュートしたりして音質を変化させる師の様々な試みに、傍で聴いていたケージが深い印象を受けている光景が目に見えそうです。プリペアド・ピアノの曲を書き続けた約10年の後、ケージの作風は「不確定性の時期」へと変わっていきます。その必然性は何だったのか、じっくり考察すると、そこに「ある風景」が見えてくるかもしれません。

*『ウェル・プリペアド・ピアノ』リチャード・バンガー著 近藤譲、ホアキン・M・ベニテズ共訳 1978 全音楽譜出版社 請求番号●C32-950

資料の部屋 ②

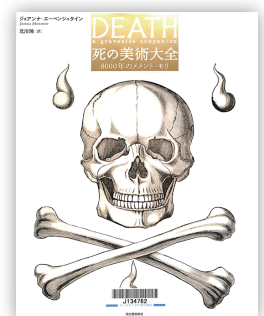
図書館員
宇田川 もも

まず目に飛び込んでくるのは表紙の大きな骸骨。両手で持つほど重たく分厚いこの本には、人類が紡いできた8000年分の「死の美術」が詰まっています。本書は、死に関する1000点以上の絵や写真を、「死の技術」「死を記憶する」など7つのテーマに分けて収録した図録で、最初から順に読んでも、写真だけをパラパラ眺めても、どちらでも楽しめる1冊です。「メント・モリ」は、本書によると「鑑賞しているあなたもいずれは死ぬのだと伝えるオブジェや芸術作品」のことを言うのだそう。ふんわりとしか知らなかった言葉ですが、この訳はとてもしっかりきました。

死というものについて、マイナスのイメージを持つ人が少なくないと思います。不快、病的、気味が悪い、不吉だ…、など。著者によると、このように考えられるようになったのはここ150年ほどのことなのだそう。死のとらえ方はどのように変わったのか?その変化は何を物語っているのか?「メント・モリ」というモチーフが大昔から存在することの意味は?本書はこうした壮

大な疑問について答えを提示するのではなく、そのまま読む人へ問いかけ、考えるきっかけを作るような内容になっています。

ミイラや人骨などぎょっとする写真がたくさん含まれているので、苦手な方にはおすすりできません。私も得意な方ではありませんが、それでも怖いもの見たさで手に取ってみたいくなるような魅力的な本です。著者が言うように、人はいつでも心のどこかで「死を見てみたい」という思いがあるのかもしれない。『死の美術大全』は図書館3F参考図書フロアの美術書の棚にあります。本に囲まれた静かな閲覧室でひっそり眺めてみてはいかがでしょうか?



『死の美術大全：8000年のメント・モリ』
ジョアンナ・エーベンシュタイン著 北川玲訳
河出書房新社 2018 請求番号●R70211S

宇田川 もも ● メキシコ「死者の日」をテーマにした映画「リメンパー・ミー」おすすりです!「007スペクター」冒頭のパレードシーンも良いです。

私のおすすめ

CD/楽譜

グローバル「エシャンジュ」の自作自演

大学院音楽研究科博士後期課程器楽研究(チューバ)2年 坂本光太

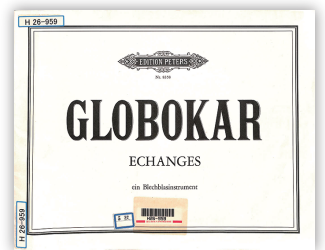
「まずトロンボーンを用意します。楽器にすっぽりと挿入されたストレート・ミュートを左手で外し、そのまま小さなシンバルを手にします。そのシンバルを小刻みにベルに叩きつけながら、マウスピースを右手で素早く外し、ファゴットのリードをトロンボーンに取り付け、息を吹き込みます、その際全力で吹奏しなくてはなりません。両手が塞がっているので、トロンボーンのスライドの先を左足で床に固定して、代わりに上半身を上下にスライドさせることでグリッサンドを演奏します。では今度は、チューニングのための抜き差し管を引っこ抜いて、音が頭の後ろの方に出るようにして、サクスのマウスピースを楽器につけて吹いてみます…」

CD「Globokar by Globokar」(1992)に収められているある楽曲の演奏行為を言葉で表現することを試みたが、その音を想像できる人がいるだろうか？

ヴィンコ・グロボカール(1934生)は、スロヴェニアに出自を持つフランス人トロンボーン奏者・作曲家である。トロンボニストとして、武満、ペリオ、シュトックハウゼン、カーゲルなどの同時代作曲

家の作品を共同制作・初演した経験は、自身の作曲に大きな影響を与えた。彼の(特に1970年代初頭の)楽曲は、特殊奏法の徹底的な使用、演奏者への身体的限界の要請、自発性の導入と言った特徴が見られる。《エシャンジュ》(1973)は、冒頭の描写のように各楽器のマウスピースや種々のミュートを絶えず「交換」(エシャンジュ *échanges* = 交換の意)しながら吹奏することによって、荒唐無稽・非伝統的・非正統的な、音響・演奏行為・楽器法を実現し、トロンボーンを従来の文脈から完全に逸脱させ、ノイズ・マシーンに異化させている(なお楽曲中音高や音価は一切記譜されていない)。

その名の通りCDは全曲自作自演によるものであり、作曲家・演奏家としての両側面が見られることが一番の醍醐味である。特に、この《エシャンジュ》を耳にすれば、異常に高い演奏テンションと、極度に歪んだトロンボーン・ノイズの破壊的洪水に引き込まれてしまうだろう。



CD 「Globokar by Globokar」 Harmonia Mundi France
(Musique française d'aujourd'hui) 請求番号●XD22028[ほか]
楽譜 Echanges : für einen Blechbläser / Vinko Globokar. H. Litolf/ C.F. Peters 請求番号●H26-959

さかもと こうた ● 大学院に入ってから修士を取得するまでに5年かかりました。「博士は何年かかるだろうか」と電車で揺られながらぼんやり考えます。

図書

苦手なものとの再会

演奏・創作学科弦管打楽器専修(ヴァイオリン) 4年 花岡美伶

タイトルを見ると数式やグラフを駆使して、ひたすら音の響きや楽器の仕組みを科学的に論じている、いかにも難しそうな内容が述べられた本…のような気がしますが、「音楽」を科学的にとらえながらも難しい専門用語をほとんど用いない、音楽に詳しくない読者でもわかるように書かれている「親しみやすい」1冊です。

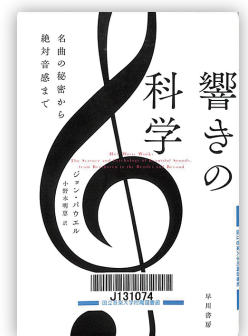
音楽と雑音の違いとは？ 和声と不協和音の違いとは？ 音階はどのようにして生まれたのか、ポピュラー音楽とクラシック音楽の違いとは？ など答えにくい音楽の常識を物理学者でありながら作曲家でもあるジョン・パウエルが、科学的視点で丁寧に解説しており、また、筆者の独特のユーモアをふんだんに織り交ぜながら書かれているので、読み進めるたびに音楽についての新たな発見を見つけることができます。

私がこの本と出会ったのは、教育実習前に実習校から出された課題を、図書館2階にあるスタディルームを利用して日々取り組んでいる時でした。スタディルームは全集楽譜や書籍、雑誌が充実しており、豊富な学習スペースもある図書館の中でもお気に入りの場

所です。スタディルームの開架図書コーナーは、課題に行き詰まった時の気分転換としてよく眺めており、そこでこの本を偶然見つけました。普段はこのような難しそうな本はスルーすることがほとんどですが、この時は課題に行き詰まり気分を変えたいと思っていたことや、音の響きについて興味をもっていたこともあり、自然と手に取っていました。

この本を通して、音について物理的・科学的な視点から考えることで、より表現の可能性が広がる気がしました。また、新しい知識を得ることがこの上ない喜びであることを久しぶりに味わうことができました。

数学的な考え方に苦手意識があり、物理的・科学的にとらえることを今まで避けてきた私が、素敵な本との出会いによって音楽を科学的な視点で見つめてみようと思直すことができました。私のように数字に苦手意識を持っている人にこそオススメしたい1冊です。



『響きの科学：名曲の秘密から絶対音感まで』ジョン・パウエル著
小野木明恵訳 早川書房 2016 請求番号●J131-074

はなおか みれい ● 教育実習先で音楽以外の教科をたくさん見学しました。中学高校時代もっと視野を広く勉強していればよかったなと思ってしまいました。

Information

夏休み前に借りた資料の返却

7月以降に借りた資料は、もう返しましたか？返却期限は9月14日(土)です。忘れずに早めに返却しましょう。

購入希望の受付が始まります

後期の購入希望受付が9月9日(月)から再開します。図書館2Fメインカウンターでお申込みください。

TAC便の夏休み明け開始は

9月2日(月)から開始します。当館で所蔵していない資料でもTAC加盟館にある場合、TAC便を利用すれば当館資料と同じように利用できます。申込は図書館2Fメインカウンターで。

長時間の離席、ご注意ください！

盗難に会う危険がありますので、長時間席を立つ時は荷物を持ってください。また、荷物を置いての席取りはご遠慮ください。

資料の返却前に確認を

「パート譜が不足」「CDや解説書が入っていなかった」など返却時のトラブルがしばしば見られます。これらの場合、返却処理ができませんので、返却前には今一度資料が揃っているか確認をお願いいたします。また、借りた際に資料の状態に不自然な点がありましたら、カウンターまでお知らせください。

資料の水濡れに注意

返却された本や楽譜、CDケースが水で濡れていることがあります。資料を傷めますので、雨の日はビニール袋に入れる、ペットボトルと一緒に入れ物で持ち運ばないなど、資料が濡れない扱いをお願いいたします。

5分間ガイダンス

休み時間を利用して5分間でワンポイントレッスンを体験する事ができます。1人から体験可能なので個人でもグループでもOKです。お申込みは図書館2Fメインカウンターまで。

図書館活動報告

<イベント>

ライブラリー・レクチャー vol.3 「知っているようで知らない楽譜の世界～五線譜なんですけど～」

7月2日(火) 18:00～@ライブラリーホール

いつも見慣れた楽譜とはちょっと違った五線譜の作品を、井上郷子先生による解説と演奏でご紹介しました。

<展示・企画棚>

新館長・井上郷子先生 現代譜展示 1「五線譜なんですけど」
6月17日(月)～8月30日(金)@エントランス

現代音楽ピアノ演奏の第一人者である井上先生に、これまで演奏された多くの楽曲の中から楽譜をセレクトし、解説をつけていただきました。

冬木透関連資料展示 5月20日(月)～6月29日(土)

5月27日(月)の創作科目会主催イベント「特別講演会映像音楽講義 ～音楽と響の間に～」に関連し、冬木氏に関連する資料を集めました。

図書館スタッフによる展示

①フィリップ・マヌリ氏来日に寄せて

6月3日(月)～6月22日(土)@3階・4階エレベーターホール

②18世紀の音楽を聴く

6月24日(月)～7月23日(火)@3階・4階エレベーターホール

③Breitkopf & Härtel社 ～300周年を迎えて～

7月24日(水)～ @3階・4階エレベーターホール

<大学イベント対応 @図書館>

ピアノフェスティバル 7月21日(日)

館内にピアノ関連図書・教則本・絵本コーナー、楽譜の版による違いを見比べるコーナーを設け、フェスティバルに参加された方にお楽しみいただきました。交流会への出張展示では作曲家の自筆譜(複製)と印刷譜を展示しました。

夏期受験準備講習会 8月1日(木)～4日(日)

図書館2階ライブラリーホールに受験生のための情報コーナーを設置しました。楽譜展示や視聴スペースを設け、受験生や保護者の方の見学にも対応しました。

<出張展示>

図書館では、大学イベントに合わせて会場で資料を展示する「出張展示」を行っています！

6月2日(日) 親子で楽しめる国立音楽大学ファミリー・コンサート2019@講堂

6月16日(日) 小学・中学・高校生のための国立音楽大学オーケストラワークショップ@講堂

7月21日(日) ピアノフェスティバル交流会

7月31日(水) 第13回夏休み特別企画子ども見学会@楽器学資料館ロビー

<ガイダンス>

5月24日(金) 早稲田みな子先生クラスガイダンス

(原書講読(英語)|EBSCOhosto 使い方ガイダンス)

7月10日(水) 阪上正巳先生 ゼミガイダンス

(専門ゼミIII・IV 音楽療法 4年)

■ 表紙：高柳涼香 武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科 4年

■ 発行：国立音楽大学附属図書館

■ 編集担当：高橋京子・宮部真砂子

■ 国立音楽大学附属図書館

<https://www.lib.kunitachi.ac.jp>

E-mail info_lib@kunitachi.ac.jp